

茶園は森の絵画～これから来るど里山農業～**活動の経緯**

消費低迷から、荒茶買い取り価格が毎年下落しており茶農家全般が経営難で離農増加傾向にある。製茶メーカーとして農業参入し、農業経営改善計画認定者となり茶農家に栽培技術や販路・ブランディング・茶の歴史勉強会を実施。委託加工を受け商品化し、各地域で独自販売することで利益を確保し中山間地域の農業を活性化するために、「茶園を保全する会」を立ち上げた。

活動の概要

各農家・組合が独自ブランドを作ることにより、販路拡大ができ収益増につながってきている。



松田町町長と茶園農業体験プログラム



茶摘み体験ツアー

活動の成果、主な実績等

「茶園農業体験プログラム」及び独自の製茶製造体験を実施。2年半で100名が参加し、新規就農者が2名、当社への雇用契約1名の成果があった。

丹沢大山茶は、松田町寄地区の基幹産業になっていたが後継者不足や価格低迷により放棄される茶園が多くみられ、当社が約40aの茶園管理を開始。茶園再生により地域生産量は2割増加し、松田町の認定ブランド商品になりふるさと納税等で地域貢献できた。また、佐野川茶、西丹沢水源林のお茶、つぶらの茶の製造・企画立案・販路紹介に関わり、佐野川茶はブランド化で地域活性・経営基盤確保に貢献。西丹沢水源林のお茶に新規参入した若手農家の茶園管理・製造を協力し予約で売り切れた為、現在50aの茶園を今後広げる計画がある。つぶらの茶は県が保有する公園内に残されていた在来種を再生し昔からある茶の魅力を伝えている。

お茶の講座、地産地消講座、小学校家庭科部会の先生方に講義を実施。

日大准教授と連携し独自技術の製茶法を3年にわたり研究した結果、焙煎技術の特異性が証明され、日本茶が持つ新たな発見として学会で発表された。